

## 会議概要

### 1. 目的

現在全国的に広がりつつあるがん患者さんやご家族等を対象とした「サロン」（がんサロン、患者サロンなど）を取り上げ、意見交換、情報共有を行う。

### 2. 主催

厚生労働省科学研究費補助金 がん臨床研究事業「地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究」班

### 3. 構成

- (1)多様なサロンの形の紹介・発表
- (2)グループ討議
- (3)全体で意見交換

### 4. 出席者概要

(定員 120 名で募集)

- (1)出席者数 106 名
- (2)所属

所属機関・団体	人数
がん診療連携拠点病院	
都道府県がん診療連携拠点病院	23
地域がん診療連携拠点病院	50
患者団体・患者支援団体	21
行政機関	2
大学関係者・研究機関	10

## ＜＜プログラム＞＞

厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業

「地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究」 がんサロンに関する会議

地域におけるがん患者や家族の交流の場～患者（家族）サロンの工夫と課題を共に学ぶ～

11:00～11:15	<p>注意事項 「地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究」 概要（研究代表者）</p> <p style="text-align: center;">静岡県立静岡がんセンター 石川 睦弓</p>
11:15～ 12:15  発表 質疑応答	<p>研究班 研究分担者発表（発表15分 質疑応答5分）</p> <p>(1) 医療者（研究者）が運用する院内での家族のためのサロン</p> <p style="text-align: center;">静岡県立大学看護学部 奥原 秀盛</p> <p>(2) 行政が運営主体となった患者サロン</p> <p style="text-align: center;">三重県がん相談支援センター 北村 周子</p> <p>(3) 患者団体が運用する女性特有のがんのための患者サロン</p> <p style="text-align: center;">認定NPO法人 オレンジティ 河村 裕美</p>
12:15～13:15  発表 質疑応答	<p>様々な立場や方法で実践されている患者家族のための交流の場：サロン (発表15分 質疑応答5分)</p> <p>(1) がんサポートコミュニティ（旧ジャパン・ウェルネス）</p> <p style="text-align: center;">特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ 大井 賢一先生</p> <p>(2) 街中「がんサロンちっこ」</p> <p style="text-align: center;">筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会 大牟田市立病院 北嶋 晴彦先生</p> <p>(3) 千葉県がんセンター ピア・サポーターズサロンちば</p> <p style="text-align: center;">千葉県がんセンター患者相談支援センター 野田 真由美先生</p>
13:15～14:15	<p>昼食 ※患者図書館・サロン見学予定の方々は、13:45にホワイエに集合</p>
14:15～14:25	グループ・ディスカッション準備
14:25～15:00	グループ・ディスカッション
15:00～15:10	休憩
15:10～16:30	グループごとに結果発表（各グループ 3分以内）・全体で意見交換

## Ⅱ サロンに関するアンケート調査結果

## がんサロン運営に関する調査をまとめるにあたって

### 【注意点】

1. 本調査結果は、「本会議に興味を持たれたサロンを実施している方やサロンに関心を持っている方々の実態や意見」というバイアス(偏り)がかかっていることをご承知おきください。

本調査は、8月25日に開催された厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業「地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究」の研究グループ主催の『がんサロンに関する会議』に参加される方々を対象とした調査です。

つまり、がん患者さんやご家族等を対象としたサロンに直接かかわっている方、また関心を持っている方々ということになります。

従って、数のデータに関するところは、一般化はできません(全体の状況や意見を代表したものではありません)ので、ご注意ください。

このアンケートは、一つには、会議参加者がサロンに関する課題や工夫等を会議前に意識化し整理して、会議、あるいはグループワークに臨んでいただくための準備として、また、サロンの実施、運営の参考になるような情報を収集・整理して、がん患者(家族・遺族)さんの交流の場や機会の提供、運営に関心のある多くの方々に情報提供をするための基礎資料という目的で、実施しました。

### 2. 自由記載に関して

自由記載の箇所は、類似した内容を集めて項目名をつけています。一人の方の記載内容に、異なった内容の記載がある場合は、内容毎に分割して、項目名のところに配置しているものもあります。

また、まとめるにあたって、文章で「ですます調」は、「である調」に、敬語もできるだけ修正しています。個人情報に含まれておりません。

## アンケート結果概要

### 【調査目的】

このアンケート調査は、がん患者さんやご家族等を対象としたサロン（がんサロン、患者サロンなど）における課題や工夫を明らかにし、社会的支援の効果的手法を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

### 【調査実施概要】

#### (1) 調査対象

8月25日の「がんサロンに関する会議」の参加者 82施設・団体等+1団体<sup>\*1</sup>

※1 当日の会議は欠席ですが、アンケートは協力したいという患者支援団体の方1名にも調査票を送付。

※1団体・施設から、2名参加されているところは、1部送付。

#### (2) 調査方法：郵送法

#### (3) 回収結果

配付数 83 回収数 63（回収率 75.9%）

### 【調査結果】

#### 1. 所属

		n=63
所属		数
がん診療連携拠点病院	相談支援センター	42
がん診療連携拠点病院	相談支援センター以外の部門	7
患者団体		3
研究者		7
その他		4

今回の会議では、がん診療連携拠点病院の相談支援センターと、「がんの社会学」合同班会議に参加された患者団体にご案内をいたしました。そのため、多くは、がん診療連携拠点病院の相談支援センターに所属されている方です。

#### 2. がんサロン実施の有無

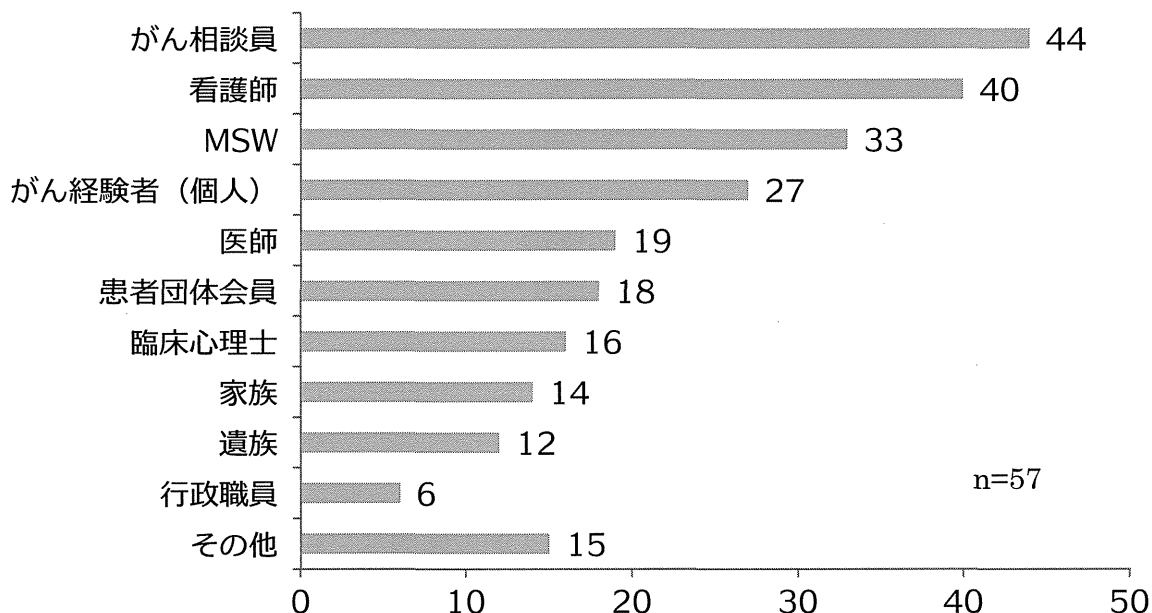
		n=63
サロン実施の有無		数
行っている		57
これから行おうと思っている		4
行っていない		2

がんサロンの工夫や課題に関して意見交換をする会議とご案内に出しているため、多くの方が、サロンを行っている、またはこれから行おうとしているという方です。

### 3. サロン運営にかかわっている方

#### 職種別数

複数回答の職種等の数を、足したもの

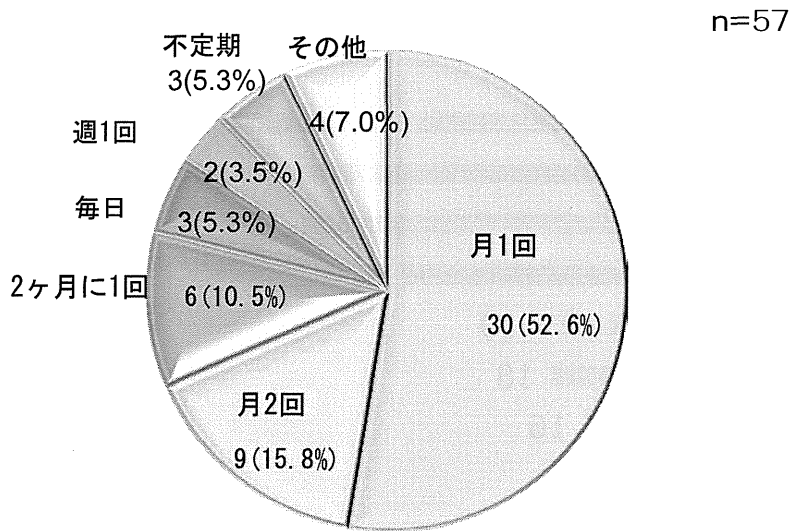


今回の会議の参加者の多くは、がん診療連携拠点病院の相談支援センターに所属される方と  
いうことがあり、参加者の回答では、がん相談員、看護師、MSW と続き、4 番目にがん経験者（個  
人）の順となっていました。がん診療連携拠点病院のサロンで、がん経験者が運営にかかわっ  
ているのは、18 施設でした。また、その他のうちの 8 件は事務職の方でした。また、下記の表  
に示すとおり、今回の会議の参加者が関係しているサロンでは、医療にかかわるいろいろな職  
種や、がん経験者やその家族等、サロン運営にさまざまな立場の方がかかわられています。

#### サロンにかかわる職種等別の数

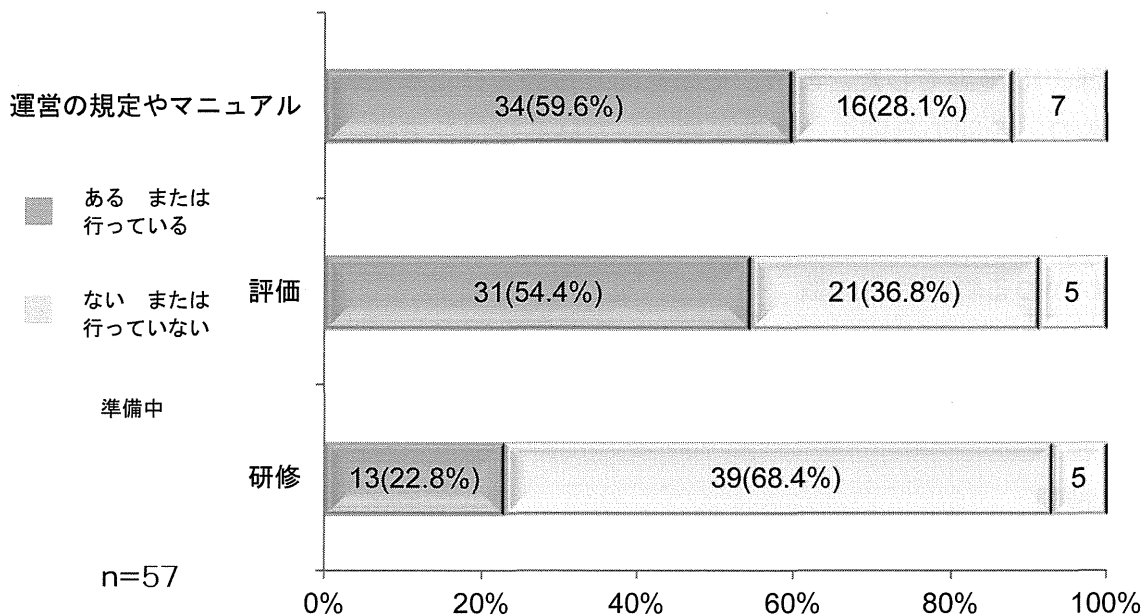
職種等別の数	サロン運営にかかわっている職種等の数
3 種類	10
6 種類	10
1 種類	9
5 種類	7
2 種類	5
7 種類	4
8 種類	4
4 種類	3
9 種類	2
10 種類	1

#### 4. サロン開催間隔



会議参加者が関係しているサロンのほぼ半分は、月1回の間隔でサロンを開催していました。毎日開催しているところも、3件（5.3%）ありました。

#### 5. サロン運営の規定やマニュアルの有無、評価の実施の有無、研修実施の有無



サロン運営の規定やマニュアルがあるところは、6割ありました。一方、研修を実施しているところは、13件（22.8%）で、準備中とあわせても3割程度でした。

## サロン運営の課題まとめ

自由記載数 61

課題記載者の所属とサロンの実施状況

所属	行っている	これから行おうと 思っている	行っていない	総計
がん診療連携拠点病院	45	3	0	48
患者団体	7	0	0	7
研究者	2	0	1	3
その他	2	1	0	3
計	56	4	1	61

### 1. 広報

#### (1) 院外への広報（院外の利用者への周知）

- 院外への広報。地域に開かれた場として運営しているが、院外の利用者はまだ少ない。
- 院外への周知方法として何ができるのか。

#### (2) 院内への広報（職員への周知、患者への周知）

- 院内職員への周知の仕方についてアドバイスがほしい。院内スタッフへの周知。参加者への広報の仕方（多くの方に気軽に参加してもらうためにはどのように工夫したらよいか） 広報方法。
- がん患者サロンの目的が院内にまだ周知できていない。
- サロンへの参集者が少ない現状にあって、患者を招致・勧誘する具体的な方法を聞きたい。

#### (3) 広報手法

- サロンで行う催し物の広報をどうするか。現在は、インターネット、院内のポスター掲示だが、知らなかったとの声を聞く。
- がんサロンを利用している患者家族が少ないので、がんサロンについてのお知らせをどのようにしていくか（がんサロン専用の掲示板の活用、イベントポスター配布、イベント開催時院内放送、病院ホームページでお知らせ、職員への周知などを行っているが、他にどのような工夫があるか）。



## 【場所・環境作り】

### (1)専有の部屋（場所）がない

- がんサロン専用の部屋がない。もしあれば、情報冊子など書籍やスタッフが常に備わっていて、体調に合わせて参加できるのではないかと思う。
- 専用の会場がないこと。（共用スペースを借用している）。

### (2)サロン開催場所の確保

- よい場所がない。
- サロンに適した部屋がない。
- 場所。
- 病院内での場所の確保が難しくなっている。
- 運営を継続すること：開催場所の確保。

### (3)環境

- 場所の雰囲気作りにどのように工夫しているのか知りたい。
- 必ずしも施設内になくてもよいと思う。

## 【企画・計画】

- 薬剤師や栄養師さんもサロンに呼びたいが、参加メンバー（患者）が不確定であり、ゲストとして来てもらったが、質問がでないことも過去にあり、企画しにくい。
- がんの種類に関係なく、共通したテーマ、個別性（がんの種類別、ステージ別、患者・家族別）を考えたテーマを考え、取組みをする難しさを感じる。

## 【関係作り・協働】

### (1)運営に直接かわからない人々との協力・協働

- 運営を担当しているスタッフ以外の協力が得られない。
- 他部署及び他団体（患者会等）との関わり方  
活動場所を提供しているが、他団体の活動をどこまで支援すればよいのか。支援するにあたっての区切りや線引きについて。
- ピアサポーター登録者が少ないことによる負担を考慮し、ピアサポーターの要請に係わる病院協力調整。

- 「サポートグループ」で運営を行っている。立場上、立ち位置の問題がでてくる。院内のサロンとして運営しているため、病院側の意向もある。病院と患者さん・ご家族の板挟みとなっている。

## (2)患者団体やがん経験者（患者）との協力・協働

- 患者団体との連携や患者ボランティアの活用についてどう取り入れていくか。
- 病院ボランティアとピアサポーターとの関係と役割調整。
- 患者さんに運営にかかわってもらう場合、どのように協働していけばよいのか。

## (3)その他

- 患者会とのすみわけ、あり方、定義。
- 無理なく皆で運営を心がけているが、いろいろな制約があり、限られた人々の負担が強い→役割へと変更する予定。
- サロンの代表者を決めるのに苦慮したことが、今になって問題となっている。何でも病院からやってもらって当たり前という考え方、病院への依存心が強い。→逆に私達がやりすぎたため、自立しきれない事かもしれないと、悩むところ。

## **【人材育成・運営主体】**

### (1)がん経験者（患者）主体の運営となるための人材育成

- 患者さん側に運営をゆだねていく上で、どのように患者さんに指導していけばよいか困る。
- 中心となって運営にかかわるがん経験者の育成。
- サポートグループのファシリテーター養成。
- 患者同士の語らいの場として、意見交換ができるように、ファシリテーター的役割の人が必要。ファシリテーターとしての役割について、十分に認識していないため、何らかの研修が必要なのではないか。
- 世話人の方が、司会・進行をしてくれているが、あくまで「お手伝い」という認識である。  
患者さんやご家族が中心となって会を作ってもらいたいが、医療者はどのようなサポートをしていけばよいのか（医療者が意見を出すと、医療者の会になってしまう）。
- 患者・家族同士の分かち合いを目的としており、患者・家族主体としたいがリーダーシップがとれる方がいない。
- 世話人。

## (2)がん経験者（患者）の運営への参加に関する課題

- リピーターの人がいれば和やかな雰囲気から最初から始められるので、患者さんやご家族等に運営に関わってもらふ必要性を感じているが、病気のこと等、心配事を抱えている方にどのように関わってもらったら良いか。
- 現在、相談支援センターの相談員主導で運営しているが、ゆくゆくは患者主導で考えている。アンケートに、運営に協力してくれる方は名前の記入を、という項目を入れたところ、記入してくれる人がいるが、どのような手順や方法で患者主導へ移行した方が良いのかが課題であり、すすめることができずにいる。今後参加者と一緒に考えていこうと思っている。
- ピアサポートの選定をどのようにしたらよいか。
- 参加者主体的な会になりにくい。
- 申し込みの必要もなく、参加は自由なので、毎回どのような人が何人位出席するか分からない。現在病院が場を設定しており、運営を患者主体にもっていくのが難しい。
- 当事者においては、一部の方のがんばりでなんとか続いている現状があり、人材育成も課題と思う（支援者側にもいえること?）。
- ピアサポーターの質の担保をどうするのか。
- 病院スタッフと一緒に運営する方(世話人)がなかなか出ない。むずかしいと考えている。運営すべてをしないといけないと思われていた。
- 患者中心でサロン運営を行えるようにすること。手伝いはできるが、運営や世話人にはファシリテーター能力が必要のため、拡大できていない。
- 現在の代表が、マスコミに対しては非常に強く反応するが、勉強会は出ない。

### **【情報提供】**

- 利用者が使用できるインターネットにつながったパソコンがないため、利用者、スタッフ共に不便を感じることもある。
- 情報提供・情報発信の場になるよう疾患の資料などをおいているが、常に職員が管理できないため、資料の紛失（持ち帰り）などがある。

## 【内容・構成】

### (1)がん種別・時期別・病期別取り扱い

- （施設では、サロンではなく患者会としている）乳がん患者さんとその他のがん腫の患者さんの患者会の目的が若干異なっているように思われる。同じ会の中でどのようにサポートしていけばよいかわからない。
- サロン参加者をがん種別で行った方が話しやすいと思うが、がん腫をしぼらずに行った場合、話し合いの内容が合わないのではないかという懸念がある。
- 現在行っているサロンは、乳がんの患者団体が運営しているもので、参加対象者が乳がん患者とその家族に限定されてしまっている。がん種で分けることの利点と課題についても検討する必要があると考えている。
- サロン主催の〈おしゃべりの会〉があるが、参加者の多くは手術後間がなく一次治療の方。その中に時々転移が見つかった方や、再発された方が出席されることがある。そんな時は参加者の明るさにかえって落ち込んで帰る人がおり、その方の次からの参加はない。そういう方だけの会を考えなければと思っている所。（乳がん患者会）

### (2)同病者の死をどのように取り扱うか

- リピーターの参加者同志で関係性ができ、その中のメンバーが永眠されたとき、終末期や死のテーマをサロンでどのように取り扱うか、戸惑いがあった。
- 遺族体験、死別体験の語りとグリーフケアは、サロンの趣旨との整合性あるかどうか。家族の死別(当事者(本人、家族)が全てリピーター)をサロンの仲間に聞いてほしいメンバーと、初参加者やがんの再発、初発告知され、治療の辛さを感じている方との心理的な影響の違いを、どうサロン内で扱うか。

### (3)患者（がん経験者）同士の語り合いにならない

- 個人の意見や個人の相談、苦情がメインになってしまうことがある。
- 開始後2年たつが、院内外における認知度が低く、参加者が少ないため、体験者同士の交流にならない日が多い（スタッフへの相談になりがち）。
- サロン一回の開催時間を1時間30分程度と設定。およそ20分位で講義(医師、栄養士、臨床心理士 etc)、その後の時間を茶話会としている。話のふり方、あるいは進行の状況によるのかもしれないが、特に医師に対する質問が集中しがち。時にマンツーマンで〈相談〉になってしまうことがある。これでは他の参加者が話す機会が少なくなるし、また次に来たいという気持ちにならずに、帰ってしまう場合がある。ファシリテーターが椅子にとどまらずに動いて場面を変えたり、他の方の意見を聞き取りに行く場をつくってみたりしているが、なかなか好転はみられない。

#### (4)その他

- サロンの内容はフリートークのみにしている。何かテーマを決めて講演等などのようなものもとりにいたらよいか気になっている。
- サロンでの会話のなかで取り上げることがタブーとされる話題はあるのか。  
例) 病期 (TNM 分類) を知らない患者がいて、説明したら大変ショックだったという。がんの患者は、CR になる人をのぞけば、最後は一般的に悪液質とがん性疼痛との戦いになるというような話、また死を語ることの是非などどのように考えるべきか。  
サロンに参集する各メンバーの病状等は、一切不明での話し合いでは、忌避すべきか？  
座する面々をみて臨機応変にケースバイケースでは片付けられない問題です。患者同士が互いに配慮するにとどまらず、運営サイドの者として、どのようなスタンスで望むべきか？

#### **【参加者の特性・参加人数】**

##### (1)参加者の固定化

- 参加者が固定している、新規の参加者が少ない(3件)。
- 新規の方が少ない、継続へとつながっていない。
- 参加者が固定し、新たな参加者が少なくなってきた。
- 参加者が少ない。2/3 はリピーターの利用者であり、60代男性が多い。1つのグループで10~12名になることもあり、あまりしゃべらない人もいる。多少マンネリ化しているけれど、リピーター以外の固定された参加者はいない。入院中の患者や家族が参加することは少なく、医療者の認知度も低いので患者さんへの声かけがない。
- 参加者が少なく、新たに参加者が増えない状態で、メンバーが固定してきている。同じメンバーでのおしゃべり会のようになってしまう、内容の見直し、案内の仕方など、どのようにすすめていけばよいかと考えている。

##### (2)参加者が少ない

- 参加者が少ないので、ピアサポートの目的を十分に果たせていない。
- 参加人数を増やすこと。
- サロンでさまざまなイベントを計画するも、人がなかなか集まらない。インフォメーションが中途半端になってしまう。
- 参加者数。平均8名程度の参加。参加者が固定しがちであり、新規参加者が増えない。グループとしては適当な人数であるが、参加者からも、なぜ参加しないのだろうなど残念がる声もある。チラシやホームページでPRしている。

- 当院には、がん以外の疾患で通院、入院している患者さんが圧倒的に多く、がん患者さんやご家族だけを対象とした相談支援センターやサロンがあっても利用者は少なく、職員にも理解されにくい。
- 参加者が伸びない→病院内での周知に問題があるのでは？医療者の理解が得られていないのでは？

### (3)その他

- 参加者が多いときと少ないときの差が大きい。
- なるべく多くの方にサロンに参加してほしいが、実際のところは参加できる方が決まってきてしまっている。県内地域すべてを網羅するのは難しい。
- 昨年度まで定期的にサロンを行っていたが、今年度は離島でのサロン（相談会）を実施予定。なかなか参加して（来て）もらうことが難しい。偏見やオープンにできないという状況が影響し、参加者数が頭打ちとなってしまう。

### **【参加者同士の問題】**

- サロン内でグループが固定し、他の参加者がグループに入りづらい雰囲気になっているサロンがある。
- 非常に性格の強い参加者がグループをつくり、複数のサロンに参加して影響を及ぼしている。
- 参加者によっては、自分の経験を多く語り、自分の意見を強く主張される方がいる。
- 一人が長く話をしてしまうと、全員の方に話してもらえなくなる。
- 参加者同士のトラブル。
- 参加された方同士の意見が違った場合、場の雰囲気をどのようにしたらよいのか。

### **【ニーズ・満足度】**

#### (1)ニーズの把握

- 参加者のプライバシーに配慮し、また不利益にならないように・・・と、全く面識のない方の参加を不可にしている（事前に相談室に電話していただき、サロンの主旨等を説明している。それをしていただければ参加 OK としている）が、広報が消極的であることから、参加者が増加しにくくニーズがつかめない。
- がん対策基本計画のなかにもうたわれている「患者とその家族のニーズが多様化して

いるなか.....」という文言のように、ニーズをどのようにつかんでいくか、その方策の検討。

- ただの談話室にならない工夫が必要だと思うが、もう少し医療連携が中心となり、地域からの情報をもとに患者やその家族がサロンに求めるものは何か、ニーズを把握する術を検討する。
- それぞれの参加者のニーズにいかに応じていくか。  
今は化学療法（抗がん剤治療）中の患者に限定して行っているが、今後、患者の拡大をはかる上で治療期によるニーズの違いに対応していけるか危惧している。
- 毎回参加される方と、新しく参加される方の参加目的が異なる場合のマッチング。

## (2)参加者の満足度

- 参加者が多い時、全員が話すことができたかどうか。参加者の満足度がわかりにくい。

## 【マンパワー不足】

### (1)マンパワー不足

- スタッフのマンパワー不足。
- 運営を継続すること：スタッフの確保。
- 日々の直接的な運営にかかわる常勤職員がいない。
- ある疾患の患者会と看護師が主に行っているが、他のがん患者を対象としたサロンが運営されていない。時々、患者さん同士が話し合える場の希望がある。場所の確保、人員の確保などが困難と感じている。
- 2ヶ月に1回開催している再発患者対象の「再発おしゃべりサロン」を15年前から実施している。当初、3ヶ月に1回で始めたが、「再発者に3ヶ月は長すぎる」という当事者からの意見で、2ヶ月に一度にしたのだが、「2ヶ月に一度も長い。毎月実施してほしい」という要望が多い。とはいえ、世話人二人がファシリテーターとしてかかわつての開催なので、マンパワーの問題で2ヶ月に一度がやっとという現状である。毎月1回開催の誰でも参加できる「おしゃべりサロン」でも、人手不足は悩みの種となっていて、毎回の担当者を一人にするなど苦労している。

### (2)マンパワー不足により、開催曜日・回数が制限される

- 様々なサロンの形態を見るが、自院では常設の会場を持ってない(場所がない)ことや、軸となる患者がいないことから、職員主導で開催し、その日の様子で、ひいたり前に

出たりと工夫している。参加していない方から、休日にやってもらえたらという意見もあり、病院の業務として行う中での難しさを感じる。

- 開催日：毎月第2・第4木曜日に開催、仕事の関係で参加できず、土日に開催して欲しいと意見がある。
- 開催日が限定されているため、診察等来院に任せての利用がしにくいという意見があるが、対応するスタッフの都合上、開催日時を拡大できない。

### (3)その他

- サロンという形（長時間の開催、入りやすい環境の設定）が準備しにくい。
- 患者の声が反映されにくい。
- 治療、家庭の事情等で、ピアサポーターの活動が安定しない。

### **【経費・運営費】**

- 諸費用。
- サロン開催の経費。
- 会費を有料・無料どちらにしたらよいか。
- 患者主体であることで資金援助について、施設協力を得にくい。
- サロン運営費について
  - 参加無料としているが、お茶代等はどのようにしているのか。
  - 病院からの予算はどれくらいとっているのか。
- 運営費用について
  - 七夕やクリスマス会等行っているが、お茶菓子等、準備に対する費用の出る場所がない。
- 資金が足りない。
- 主に、本部会員にて活動している。本部会員は、年会費を納めている。しかし、現状サロン参加者は、病院からの紹介が多く、また病名も違うため、会費をもらっていない。会場費、当日の飲み物の提供、印刷物、郵便物、講演会費用などすべて本部から運営費として出ているので、その部分が課題となっている。



## 【規定・マニュアル】

- サロンでのイベント開催の受理に関する規約等(自由と危機管理、管理責任)。
- 患者さん同士の個人情報伝え合うことは良いのか疑問(会に参加された人に、前から参加していた方が、メールアドレスや住所などを聞いてしまうケース)。
- 来訪者の個人情報を守ること(ボランティアに対しての守秘義務の徹底)。
- サロン規定、事務局規定等の整備。

## 【その他】

- イベント開催することについて
- 院内サロンを開設予定であり、患者会のメンバー（乳がん）の協力ですすめていく予定である。
- 現在 10時から 15時（12時から 1時間休憩）で開催している。  
13時から、医療者、患者さん体験談を含めた講義をしており、定着したせいか、午後からの参加が集中するようになった。  
午前中も集まってもらえるようにするにはどうしたらよいか課題。
- 多職種がかかわっているため、院内での位置づけがあいまいになり、責任の所在がはっきりしない。
- 参集時間に幅があること。
- 参加している患者さんのピアサポートについても悩みあり。
- 個人の治療方法についての意見を求められた時、どのように対応したらよいか。
  
- 当院としてどのようにサロンを運営していくか等設置に向けた素案作りが課題になっている。  
目的、内容（プログラム）、目標設定、位置づけ、スタッフの配置調整（人選も含む）、実施に向けてのマニュアル作成、ピアサポーターも含めた研修、会場設定、周知方法、地域とのかかわり、評価方法等。さまざまな部分での検討が必要。

## サロン運営の工夫まとめ

自由記載数 56

課題記載者の所属とサロンの実施状況

所属	行っている	これから行おうと 思っている	行っていない	総計
がん診療連携拠点病院	41	3	0	44
患者団体	6	0	0	6
研究者	2	0	1	3
その他	2	1	0	3
計	51	4	1	56

### 【広報・啓蒙】

#### (1) 院外・院内への広報活動

- 院内外への広報活動。
- がん関連部門のスタッフの声かけ（外来化学療法センターに治療に来られた患者さんや相談に来られた方、緩和ケアチームのラウンド時など、意識的に行っている）。
- 参加していただく方へのアピールを広げていき、門を広くしていく工夫が大切。

#### 広報

院内：各病棟、外来等への掲示

がん医療相談室だよりにサロンの案内

（各病棟、外来、サロン参加者、待合室に配布）

院外：新聞、病院ホームページに掲示

#### 病院スタッフの広報活動

院内アナウンス、メール、ポスター（掲示・卓上）、チラシ

#### (2) 広報手段

- 年度初めに1年間の予定をたて、案内用ポスターを作製し、各科関係部署に配布し掲示してもらう。
- 一度参加してくれた方が、継続して参加しやすいように年間スケジュールを配付している。
- イベントの年間テーマを決めて外来から病棟へのインフォメーションも定例化。

- 乳がん患者会の年間計画のポスターを作製し、各科関係部署に配布して掲示してもらう。
- 新聞などの広報の工夫や、当日、院内放送で呼び掛けたり、病棟への案内も行っているが、入院患者の参加は少ない。
- 昨年度から、ポスターの内容の変更や、掲示場所を増やすなど広報についても工夫している。
- 毎日の内容をホームページにアップし、運営のPR、患者さんへの啓蒙を行っている。
- パンフレットで年間の講義スケジュールを提示。
- 広報（新聞、地域情報紙誌、院内広報誌）を積極的に行う。
- ホームページやポスター掲示など、広報活動に力を入れている。
- がんサロンに参加してもらえるようにどのようにアピールしているのか（ポスターなど）知りたい。

#### 【場所・環境作り】

- 院内最上階、眺望がすばらしい明るいレストランの奥を借りて、パーティションで囲っている。ほどよくプライバシーが守れ、また日常の病室や診察室と全く違う、生活感や社会性などが感じられ、参加者から喜ばれている。必要な書籍や情報パンフレットなどスタッフが毎回運んでいて、問題は少ない。ただ使用頻度が限定されていて、「いつでも好きな時にサロンに行く」という選択肢がないのが難点。
- 癒、和、絆などをベースに雰囲気を作る。季節(時間)を大切にしている。  
(場所・環境作り)
- 専用の会場の確保(会議室などをその都度確保するのではなく、常設で設置)。
- サロンでの来訪者のすごしやすさを提供する。
- サロン開催中に、音楽療法CDをBGMとして流している。
- 会場にさまざまな展示物をおいたり、季節毎の飾りをしたりしている。
- カフェの雰囲気ですリラックスできる環境につとめている。
- なごやかな雰囲気作り。季節感もてる環境作り。
- 茶菓を提供し、リラックスした雰囲気で行う。
- 病院ボランティアに協力してもらっている。会場内の飾り付けや、サロン参加者への手作りのおみやげなどを提供してもらい、参加者からも好評である。
- 入りやすい環境の設定（花を置く etc）。
- なるべく多くの方に利用してもらえるよう環境の整備や、催し物の充実を図っている。
- 自由に発言できる雰囲気をつくる。

□ 会場の雰囲気作り

テーブル・ソファの配置、フラワーセラピー、音楽など、患者にあわせた飲み物（温かいモノ、冷たいモノ）

**【関係作り・協働】**

(1)ピアサポーター、患者（がん経験者や患者団体）との協働・連携

- キーパーソンとなる患者さんやご家族との関係を良好にし、「支援」と「協働」を確立させていくために、サロンのキーパーソンとの対話とグループにおけるポジショニングを大切にしながら、ファシリテーターとしての役割を担うことが重要であると考えている。
- ピアサポーターとの意見交換、コミュニケーションを頻回に行い、患者家族のサロンに対する希望や要望を取り上げられるように心がけている。
- ニーズの把握を続けていくため、世話人との意見交換会をする。
- 患者会の代表者との定期的な意見交換の設定。
- ボランティア（がん経験者）の協力を得る（共に運営を）。
- ボランティア活動(ピアサポート)として位置づけし、活動しやすいものとする。

(2)利用者（患者・家族）の意見聴取

- 運営に迷うことは、可能な範囲で患者さんやご家族に率直に意見を聞いてみる工夫をしている。
- 拠点病院でのサロンでは、担当者の立場に配慮し、患者の意見を押し付けないようにしている。参加者の声をアンケートなどで集めて、病院に提示している。
- 患者さんやご家族のニーズに合う形を模索し、共に作りあげていく姿勢を大切にしている。

(3)ボランティアとの協働

- ボランティアの活動のしやすさを提供する。
- ボランティアの方の参加なども検討していきたい。

(4)院外との交流・情報交換

- 他サロンとの交流やリーダーの交流を進めている。
- 県内のがん拠点病院のがん相談員同士で、情報交換を行っている。